

市民生活課

芸備線の利用促進策に協力を

芸備線対策協議会がJRに協力要請



オンラインにより実施された協力要請

JR芸備線沿線の4市(三次市、広島市、安芸高田市、庄原市)で構成する芸備線対策協議会は、5月19日、JR西日本広島支社へ、芸備線の存続のために実施する利用促進策に対する協力を要請しました。

要請書では、JR線を活用し、県内循環型の経済圏の構築を目指すため、沿線自治体および沿線住民とJRが一丸となって利用促進策が実施できるよう、JRに連携と協力を求めました。

要請書を渡した後の会談で、木山耕三市長は「本市にとって鉄道は、住民生活の重要な基盤であるとともに、地域間交流の大切なツール(手段)となっている。ともに利用促進に取り組み、魅力ある交通にしていきたい」と話しました。



協力を呼び掛ける木山市長

市は、住民の皆さんと一緒に芸備線の利用促進に取り組みたい。運賃や駅イベントへの助成を行っているほか、親子乗車体験事業や車窓フォトコンテストなどを準備中です。

また、芸備線対策協議会では、昨年実施した「芸備線おもてなしマルシェ」などの利用促進事業を実施することとしています。

新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にある芸備線を守るため、芸備線のご利用をお願いします。

Camera Report

カメラレポート

●市内のイベントやまちの話題をお届けします。行政管理課広報統計係 ☎0824-73-1159/Fax0824-72-3322



2年ぶりの開催

帝釈峡湖水開き・4/29

No.1

新緑に彩られた神龍湖で「第53回帝釈峡湖水開き」が行われました。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、今年は検温やマスクの着用などの予防対策を実施の上、2年ぶりの開催となりました。

「トレイルセンターしんりゅう湖」では、比婆荒神神楽や帝釈峡小唄などのステージイベントや、地元食材を使った料理などのフードブースも開設されました。また湖面では、帝釈峡の雄大な自然の中、龍をかたどった2隻の遊覧船が紅白の煙を吐きながら登場しました。

訪れた人たちは「龍船の登場はとても迫力があった」などと話し、2年ぶりに開催された湖水開きを楽しんでいました。



▲龍船が煙を吐きながら大迫力で登場



▲エレクトーン演奏とサクソ演奏によるステージライブ



▲帝釈峡小唄



子どもの健やかな成長を願い

永田地域 こいのぼり

No.6

永田ふれあい自治会が、口和町永田地域の「いきいき広場」にこいのぼりを掲げました。これは同自治会が子どもたちの健やかな成長を願い、7年前から端午の節句の時期に行っています。

掲げられているこいのぼりは、子どもの成長とともに使われなくなったものを、地域の人たちが持ち寄り、現在では11匹となっています。青や赤、黒などの色とりどりのこいのぼりが、風に揺られながら悠々と泳ぎ、見る人を楽しませました。

広場利用者は「たくさんのこいのぼりは迫力があり、彩りもとてもきれいだった」と話しました。



▲風になびくこいのぼり

大きく育て！

トウモロコシ種まき体験・5/10

No.8

食育教室の一環として、西城町油木地区でトウモロコシ種まき体験が行われ、西城小3年18人が参加しました。食育とは、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。

児童は、前油木営農組合長の高原芳典さんから、この日植えるトウモロコシの種類や植え方について説明を受けた後、カップに分けられた種を持って畑に入っていました。最初は慣れない様子で作業をしていた児童でしたが、地域の人からアドバイスをもらいながら、一生懸命広い畑に植え付けました。

8月ごろには、大きく育ったトウモロコシを収穫する予定です。



▲種を植える児童

来館者500万人達成！

ゆめさくら 500万人達成記念式典 4/23

No.5

食彩館しょうばらゆめさくらの、来館者500万人の達成を記念する式典が開催されました。

平成14年4月開業のゆめさくらは、野菜産直市、物販コーナー、展示スペースなどを備えており、オープンから丸19年での達成となりました。

500万人目の来館者は、広島市東区在住の受田さん夫妻で「記念すべき節目に当たりうれしい。機会があればまた寄りたい」と喜びました。

施設を管理するグリーンウインズさとやまの奥井智裕社長は「地元だけでなく、広域からもっと多くの方にお越しただけのよう、力を入れていきたい」と話しました。



▲受田さん夫妻（写真下段中央）と記念撮影

命を守るために

交通安全教室・4/28

No.7

総領小学校で交通安全教室が行われ、児童46人が参加しました。この日はあいにくの雨だったため、運動場ではなく体育館での講習となりました。

講習では映像を見たり、交通安全協会総領分会の中田博章さんから「自転車に乗る時のルール」について話を聞いたりしました。また、庄原警察署総領警察官駐在所の大野降司警部補と一緒に、道路を渡る時の注意点や、道路にどんな危険があるかの確認、自転車に乗る前の点検について学びました。

同小学校の高下一志校長は「交通ルールを守ることは、命を守ることにつながる。自転車の点検や、安全な歩き方の確認ができたので、事故に遭わないために、登下校にも生かしてもらいたい」と話しました。



▲交通安全教室の様子

今年もオープン！

比和の特産市場・4/25

No.2

あづま蔓の牛像がシンボルの「比和の特産市場」が、今年もオープンを迎えました。比和町木屋原地域にあるこの特産市場は、4月～12月の土・日曜日（午前中）に営業しており、アルコール消毒液やレジにビニールシートを設置するなど、感染対策を行いながらのオープンとなりました。

店内には、つくたてのお餅や地域で取れた新鮮な野菜など、多くの産品が並んだほか、この時季ならではの食材である、ミツバウツギやハナイカダ、ユキノシタなど10種類以上の山菜も店頭をにぎわせました。

午前8時のオープン直後から、たくさんの人が来店し、柏餅などすぐに完売する人気商品もありました。

山菜を買いに訪れた地域の人は「今日は早速、この山菜を天ぷらにして食べたい」と話し、春の味覚を楽しみにしている様子でした。



▶特産市場の敷地内にあるあづま蔓の牛像

大盛況の周年祭

第8回雪どけまつり・4/24～25

No.4

道の駅たかので「第8回雪どけまつり～道の駅たかの周年祭～」が開催され、たくさんの来場者でにぎわいました。

駅舎周辺では「道の駅たかの出荷者協議会」会員による、地元産食材を使った惣菜・スイーツなどの販売が行われたほか、島根県・岡山県・広島県の道の駅、約20店舗から自慢の逸品が集まったPRブースも設けられました。また、除雪車などの働く車の展示や、JAF（一般社団法人日本自動車連盟）広島支部による子ども安全免許証交付イベントなどもあり、子どもたちの元気な声が聞かれました。

来場者は「庄原市の“食”を満喫できた。今度はゆっくり観光スポットを巡ってみたい」と話しました。



▲道の駅PRブースの様子



▲比和の特産市場



▲店内に並ぶ山菜や野菜

西日本初の試み

ドローンによる「リンゴの人工授粉研修会」・4/22～23

No.3

庄原市果樹振興協議会が主催する「リンゴの人工授粉研修会」が、東城町と高野町で開催され、30人が参加しました。この研修会では、西日本で初めてドローンを使った人工授粉の実験が行われ、リンゴの花が咲く農地内で、花粉を混ぜた溶液が散布されました。

一般的にはハチを使った授粉が行われていますが、ハチの活動状況や、天候に左右される面がありました。また、作業の効率化や人手不足の解消など、リンゴの安定的な生産のため、ドローンを活用した人工授粉の実用化が期待されています。

参加者は「価格が高いなど問題はありますが、安定的に良いリンゴを届けるためにドローンは活躍する可能性がある」と話しました。



▲農地内を飛ぶドローンと見学するリンゴ農家の皆さん